教育基礎論	講　師　　堤　ひろゆき

１．授業のねらい・概要

われわれは教育を通じて大人になり，教育という関係性のなかで日々他者とかかわっている。誰もが日常的にかかわり経験的に知っているこうした広い意味での「教育」を，批判的に捉え直す試みが教育「学」だとするならば，教育学を学ぶことにはわれわれ自身のアイデンティティを問い直す作業が必然的に含まれると言える。この授業では，われわれが素朴に抱く子ども観や学校観の歴史的・思想的起源を探ることによって，自らの暗黙的な教育観を反省的に対象化・言語化することを目指す。最終的には，他の諸学問とは異なる教育学的な思考様式の基礎を身につけ，教育という視座から様々な事象を眺めることの重要性を理解してほしい。

２．授業の進め方

レジュメおよび資料を配布し，基本的には講義形式で進めていく。また具体的な教育実践を扱った映像資料なども適宜織り交ぜていく。

３．授業計画

１．講義の概要	９．ルソーの教育思想①：子どもの発見
２．「教育」の条件①：ヘレン・ケラーの事例から	10．ルソーの教育思想②：消極教育
３．「教育」の条件②：野生児の事例から	11．近代の教育装置としての学校
４．子ども観の思想史①：子ども観の社会史	12．近代教育批判①：イリイチの脱学校論
５．子ども観の思想史②：現代の子ども観	13．近代教育批判②：デューイと現代
６．教育関係と教師の権威	14．学校教育の可能性
７．ロックと体罰①：ロックの教育思想	15．講義のまとめと総復習
８．ロックと体罰②：ロックの体罰論と現代	

４．到達目標

・教育の原理に関する基礎概念や理論を理解する。
・教育思想の変遷や学校教育の歴史について理解する。
・現代の教育問題について，理論や歴史をふまえた考察を行うことができる。

５．準備学修に必要な時間，またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

・配布資料および参考文献の読解（30 分程度）。
・論述課題にむけての準備（1 時間程度）。

６．成績評価の方法･基準

平常点（30%）および期末試験（70%）をもとに総合的に評価する。

７．テキスト･参考文献

参考文献：木村元ほか（2009 年）『教育学をつかむ』有斐閣。
　　汐見稔幸ほか編（2011 年）『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房。

８．受講上の留意事項

本講義では他の教職関連科目を受講する際の基礎となる内容を扱うため，原則として 1 年次に履修すること。明確な目的意識をもち，教職に就くことを強く望む学生の受講を希望する。